

4 職種ごとの育ちあう人材育成ビジョン

【相談支援専門員】

① 目指す人材像

障がい児者への相談支援の質向上に努め、個別の課題からの地域課題の解決に向けて、地域（自立支援）協議会を活用し、地域づくりができる。また、地域のOJTに積極的に参加し、育ちあえる体制の整備に寄与できる。

② キャリアイメージ（図3）

初任者研修を入り口に現任研修、主任研修と業務従事歴ごとに必要な研修を受講しながら実践を重ねることが主なキャリア形成の流れとなります。これに、ファシリテーション研修などより専門的な研修を受講してさらなる資質向上を目指します。

現任研修を受講する中堅期以降は、障がい当事者への相談援助に加えて地域づくりを担う役割も期待されます。そして、ファシリテーション研修修了以降は地域の中核的人材として、県研修の企画・立案、研修講師、演習講師として人材育成と、地域づくりにも貢献していきます。

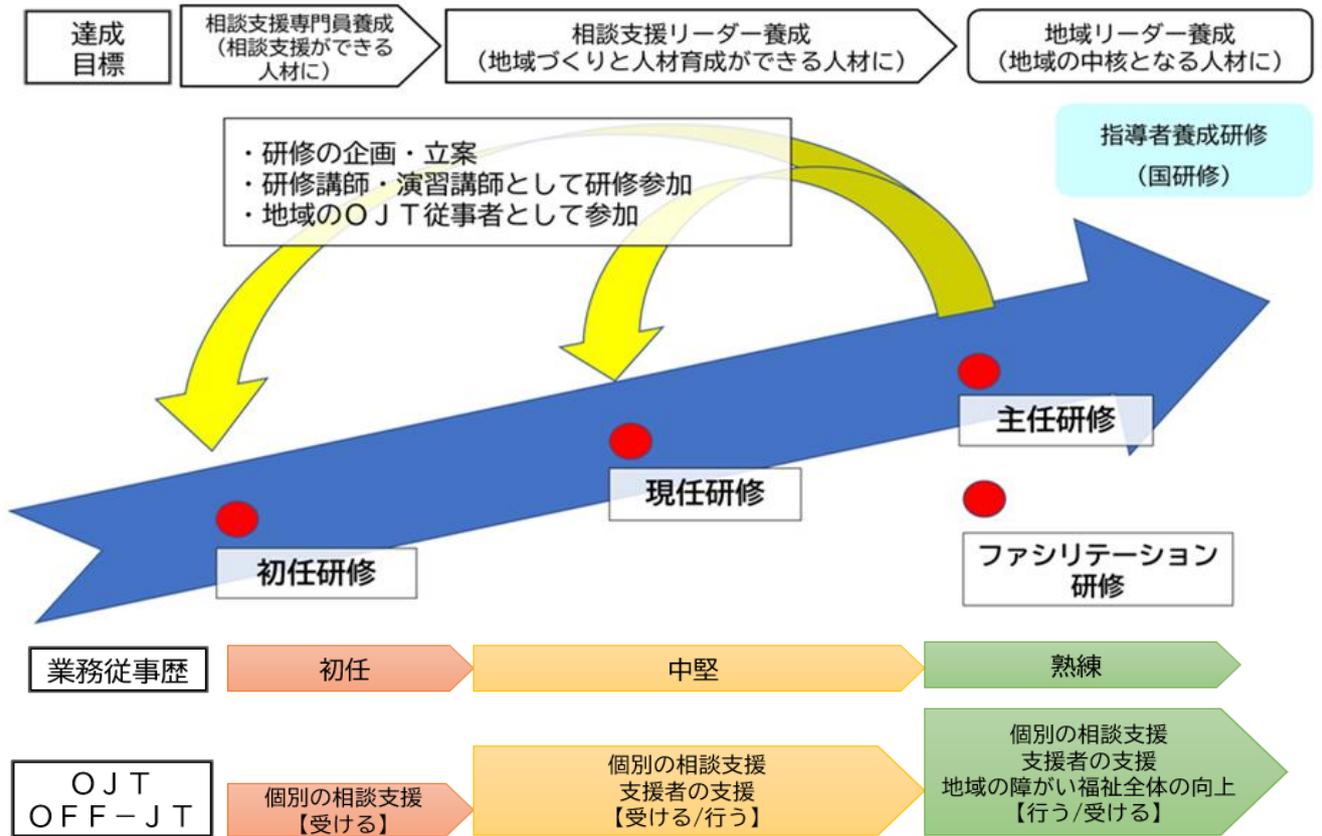
■ 地域の人材育成の要となる主任相談支援専門員の役割

事業所や地域において指導的役割を担い、高度な知識と豊富な経験を活かし、多様で複雑なケースへの対応のみならず、地域づくりの推進役を担い、「相談支援専門員養成に関する実習時の助言・指導」や「現場での実地教育（OJT）」を行うなど相談支援の質の確保を図り、人材を育てていく役割が期待されています。

■ 主任相談支援専門員等の専門職のアドバイザー派遣（障がい者相談支援事業）

県では、主任相談支援専門員をはじめとする相談支援等の専門職のアドバイザーを、（自立支援）協議会の活性化、人材育成を含む相談支援体制の整備と基幹相談支援センターの設置、地域生活支援拠点等整備の促進など、地域の課題やニーズに応じ、市町や地域（自立支援）協議会等に派遣し、助言・調整や広域的支援を行っています。

(図3) 相談支援専門員におけるキャリアイメージ



※OJT:現場で実際に業務を行いながら、上司や先輩から必要な知識や技術を教わりながらキャリアアップを目指します。

地域づくり		
<p>初任研修</p> <p>【目的】</p> <p>相談援助技術を学ぶことにより、相談支援従事者の基本的姿勢および技術・知識を習得する。</p>	<p>現任研修</p> <p>【目的】</p> <p>個別の相談支援（意思決定支援）から、チーム支援、コミュニティワークへの展開について学ぶことにより、相談支援従事者として、資質が向上する。</p>	<p>主任研修</p> <p>【目的】</p> <p>地域の障がい者の意向に基づく地域生活を実現するために、地域課題についての協議や、相談支援に従事する者への支援（支援者支援、OJT）を実施する等、中核的な役割を果たすことができる。</p>
<p>コラム</p> <p>■福井県における相談支援専門員の育成について</p> <p>研修を受講したからと言って、すぐに相談支援専門員の業務ができるようになる訳ではありません。身近な地域で「わからないことはすぐに聞ける」関係性や体制をつくり、専門職同士の水平な関係の中で、常に相手に敬意をもって関わりあい、育ちあえることが大切です。</p>		<p>ファシリテーション研修※</p> <p>【目的】</p> <p>ファシリテーション技術を習得し、自立支援協議会や支援チームづくり等で活用し、従事者の中核となる人材として、地域で育ち合う環境（OJT）の体制整備を図る。</p>

※現任研修修了後から受講可能です。